

平成25年9月20日

第114号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



小松原湿原（湿原に秋の訪れを感じる草紅葉）（新潟県十日町市）

（撮影者：中越森林管理署 伊庭 和幸）

3年目を迎えた准フォレスター研修及び

研修修了者を対象としたフォローアップ研修の取組

森林整備部 技術普及課

私と国有林「松川浦の復興に向けて」

相馬双葉漁業協同組合松川浦支所長 杉目 一郎氏

3年目を迎えた准フォレスター研修及び

研修修了者を対象としたフォローアップ研修の取組

森林整備部 技術普及課

准フォレスター研修受講状況

平成23年度から開始され3年目を迎えた「准フォレスター研修」について、当局管内の修了者は、平成25年度修了予定者を含めると230名（うち国有林職員25名）となります。

なお、平成25年度第1期研修は8月に終了、受講者は9月からの第2期研修に向け研鑽中です。



准フォレスター研修受講の様子

フォローアップ研修

関東森林管理局では、研修終了者を対象に、准フォレスターの更なる技術力の向上と准フォレスター同士の横の連携を深める観点から、局署においてフォローアップ研修に取り組んでおり、今回、その一例を紹介します。

平成25年1月30日から31日に、局及び森林技術・支援センターの主催で、各県准フォレスター及び国有林准フォレスター計24名が参加し、複層林施業の現状や長期育成循環施業の導入等による「多様な森林整備に向けた施業」を題材に、各施業について意見交換を行いました。

参加者から、継続した検討会の実施要望があり、平成25年度も実施する予定です。

平成25年3月6日に、東京神奈川森林管理署の主催で、学識経験者・環境省職員・神奈川県准フォレスターを含む県職員・箱根町職員及び国有林准フォレスター計27名が参加し、芦ノ湖西岸の針広混交林誘導モデル

施業について、現地を観察、技術的課題を中心に意見検討を行いました。今後も森林づくりのモデルとなる施業を目指し、検討会を実施する予定です。



東京神奈川署フォローアップ研修の様子

平成25年6月19日に、埼玉森林管理事務所の主催で、埼玉県准フォレスター・国有林職員計13名が参加し、急傾斜地における間伐木の搬出方法について検討、意見交換を行いました。

今後は、国有林、埼玉県有林双方のフィールドを活用した現地検討会も計画されています。

平成25年8月6日に、中越森林管理署主催で、新潟県准フォレスターを含む県職員・地元林業関係者・市町職員・国有林職員計31名が参加し、集約化施業を想定した伐採方法及び



埼玉所フォローアップ研修の様子



中越署フォローアップ研修の様子

森林作業道の路線選定について意見交換を行いました。
素材生産終了後には、実際に森林作業道がどのように開設されたか検証する機会も設定しています。
このように、各地において様々な

取り組みがなされ、准フォレスター研修を修了した方々が、地域の森林づくりに真剣に取り組んでいます。

森林総合監理士（※） （フォレスター）認定制度

今年度より、地域の森林・林業の牽引者となる森林総合監理士（フォレスター）制度が始まりました。准フォレスター研修を修了した局内国有林職員14名が受験しました。フォレスターの資格を取得された方々には、民有林・国有林の連携をはじめ、今後の活躍が期待されているところです。

（※）森林総合監理士とは、広域的・長期的視点に立った森林づくりと林業・木材産業の活性化に向けたビジョンを描き、ビジョン実現に向け、関係者の合意形成を図りながら、地域ごとに取り組むを進めていく中心となる技術者。

幹部の紹介

9月1日付け（ ）は前職

関東森林管理局課長

▽企画調整課長

樽谷 宜彦

（林野庁国有林野部経営企画課地域森林計画調整官）

森林管理署署長

▽静岡森林管理署長

枝澤 修

（中部森林管理局東濃森林管理署長）

赤谷プロジェクトサポーターの祭典

「赤谷の日祭り」開催

赤谷森林ふれあい推進センター

平成25年8月3日（土）群馬県みなかみ町猿ヶ京温泉において、「赤谷の日」祭りを開催しました。赤谷プロジェクトは発足してから今年で10年目を迎えます。

この節目に、地元の皆様をはじめ、より多くの方々が、群馬県みなかみ町内の約一万畝の「赤谷の森」を舞台に取組んでいる生物多様性の保全や持続的な地域づくりなどの活動を楽しく体験できる機会として、また、サポーターと地域の皆様が交流できる場として5つの体験コースを用意しました。

①旧三国街道・三国峠を歩こう！
②溪流環境復元見学ツアー

③自然林復元試験地の見学ツアー

④いきもの村ツアー

⑤ネイチャークラフト

それぞれのコースには、財団法人自然保護協会、地域協議会、赤谷森林ふれあい推進センターの職員と赤谷プロジェクトサポーターが、ガイド等として、県内外の参加者を案内しました。



ネイチャークラフトの様子

体験者数は、96名でした。今後も地域の皆様に親しまれる赤谷プロジェクトを目指すため、このような取り組みを企画したいと思います。

参加者募集

赤谷の森自然散策

錦秋に染まるブナ・ミズナラ等の樹木を観察しながら、旧三国街道を歩きます。

今回は、高低差600mの群馬県側のコース。（初中級登山）
帰りは、たくみの里「豊楽祭」を見学します。

◎今回の試みとして、ボランティア・スタッフさんを募集します。
自然観察の案内や運営に参加してみたい方！ぜひ、ボランティア・スタッフとしてご協力ください。

日時 平成25年10月27日（日）
集合 JR後閑駅9時集合
申込み・問い合わせ先
赤谷森林ふれあい推進センター
電話番号（0278）60・1272

※ 赤谷プロジェクトでは、10周年を記念した様々なイベントを企画しております。詳細は、赤谷森林ふれあい推進センターのホームページをご覧ください。

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html

小笠原諸島森林生態系保護地域指定ルート探訪記(その1)

たつみ

つつじ

異道路終点へ 躑躅山

小笠原諸島森林生態系保全センター

8月17日、今日も晴れています。

天気予報は雨のはずが、まだ午前中というのに日差しが真上から容赦なく降り注いできます。

春先から夏の暑気を感じ取ることもできる場所ですが、真夏の8月ともなると痛いほど太陽を近くに感じます。

こんな季節ですが小笠原諸島森林生態系保護地域にある指定ルート(注1)の中でも人気の高い千尋岩へと向かいました。

今回辿るコースは異(たつみ)道路終点から入るルート。

通常のルートより大回りでも余分に掛かりますが、躑躅(つつじ)山、朝立岩などがあり変化に富んだ景観を楽しめるルートになっています。

ルートの入口にはカウンターシステム、これは誰がどこに入山したかを記録する画期的なシステムです。各ルートの入口に設置されていて、利用状況を把握することでルートの管理に役立てています。

また、併設してあるのは種子除去装置、外来種の種子や陸産貝類(注2)を食べるプラナリア(注3)を

除去する優れたものです。

こういったシステムを利用することで森林生態系が保全されているのです。

これから広がる固有種の森に期待が高まります。

歩き始めの歩道は幅2メートルほどで比較的歩きやすいのですが、タコノキやオガサワラビロウ、ムニンヒメツバキなどの固有種が生い茂る湿性高木林となっています。

雨の少ない時期でも湿度が高く、風も通らず、真夏ということもあり



カウンターシステムと種子除去装置



固有種が生い茂る湿性高木林

汗が流れるように噴き出します。観光で来島される方が夏に山のツアーを敬遠するのがよく理解できます。

しかし、今回は父島の人気ルートを紹介するために飲料水を3リットル持ってきました。頑張つて歩きます。

しばらく平坦な歩道を歩いてから、外来種のキバンジロウ(注4)で造られた階段を上りきると躑躅山が見えてきます。

最後の登りは凝灰角礫岩の岩場で、ちよつとしたロッククライミングの雰囲気味わえます。

1月から6月の繁殖期にはオガサワラノスリ保護のため入山が禁止されている場所です。

山頂からは今歩いてきた異方面の森林が絨毯(じゅうたん)のように広

がり、つがいのノスリが谷を渡り海
の方向に飛んで行きました。
鳴き声は鳶(とび)に似ていなくも
ありませんが、諸島に200頭程度
しか生息していない固有亜種の天然
記念物なのです。

(注1) 森林生態系保護地域は基本的にレクリエーション等の利用を認めていないが、森林生態系へのインパクトの少ない、元々あった踏み分け道などに限ってルートとして指定している。

(注2) カタツムリ、ナメクジ等の陸生貝類。

(注3) ヒルやサナダムシと同じ「扁形動物」のなかまで再生能力が著しく切断された部分が再生される。

(注4) フトモ科、グアバの仲間。果樹として移入したものが野生化した。果実はグアバより美味とされる。



躑躅山の頂を望む

夏休み 治山教室の開催について

大井川治山センター

8月2日（金）大井川治山センターと榛原川地区治山協議会では、小学生を対象とした恒例の治山教室を川根本町の榛原川地区で開催しました。地元川根本町と藤枝市から小学生13名が参加しました。

なお、今回は特別に地元本川根小学校の先生方6名も参加されました。雨が心配された朝、バスで出発し車内では自己紹介の後、森林の働きや治山事業について説明をしながら、現地へと向かいました。

治山施工箇所の見学

最初はゴボウ薙治山工事箇所の見学です。

着手前の写真と復旧途上の現況及び完成予想図の説明を受けたり、ケーブルクレーンでの資材運搬など興味深そうに見学していました。

機械を使用した体験学習

続いて光波測距儀を使用する測量体験です。

工事現場での重機搭乗体験

2班に分かれて距離の測定を体験した後、測点を示して目測で距離を当てるクイズを実施しました。成績優秀者の発表は後のお楽しみということで次に移動しました。休憩を挟んで、輪尺、測桿、バーテックス等の使い方を教えてもらい、胸高直径や樹高の測定を調査体験しました。

昼食休憩の後、ホーキ薙治山工事箇所に向かう途中で樹高の目測クイズを実施しました。

「これも賞品があるよね」と念押ししつつ子供たちは真剣な表情で樹高を測定していました。

同行の先生方も先ほどの測量クイズと同様に子供達と一緒に楽しそうに参加していました。

閉会式

閉会式ではクイズの成績優秀者を表彰しました。

参加者全員にもカブトムシなどのお土産があり、子供たちの目が輝きました。

帰りのバスの中では、森林や治山事業についての難しい質問も飛びだし、子供たちが想像以上に興味を持っていることが確認できました。

特別に参加した先生方からも、貴重な体験をして子供達への教育にも生かせるというありがたい言葉をいただきました。

参加した子供たち、主催者共々有意義な一日となりました。



ゴボウ薙工事箇所見学



測量体験



重機搭乗体験

私と国有林

「松川浦の復興に向けて」

相馬双葉漁業協同組合松川浦支所長 杉目 一郎



松川浦全景(震災以前)

福島県北東部に位置する松川浦は南北に延びる砂州とそれにより外洋と隔てられた内海からなる県内有数の景勝地です。

湾内には大小さまざまな島が点在し、国有林である砂州とクロマツ林はまさに白砂青松という表現がぴったり当てはまる風景で、潮流が穏やかな遠浅の環境を利用し、海苔養殖を行ってきました。

松川浦で本格的な海苔の養殖が始まったのは明治34年の漁業法制定後で、当時は干潟に生えていた葦や萱で海苔ひびを作り付着した黒海苔を収穫していました。



海苔養殖状況(震災以前)

昭和初期頃になると松川浦でも現在、海苔網による養殖方法が導入されるようになり収穫量が一気に増加しました。

ところが昭和18年には赤腐れ病が蔓延し黒海苔がほぼ全滅状態となり、昭和40年頃になるとそれまでの天然採苗から人工採苗へ、更に種苗の冷凍保存の技術が確立され、天然採苗地として優秀な早タネ網の供給地であった松川浦は衰退の道をたどるようになっていました。

当時の漁協の役員たちは今後の海苔養殖をどうするか総会を何度も開催しましたが、その対応策に決め手



海苔網(震災以前)

はありませんでした。

そんな中、当時、まだ一組合員にすぎなかった私は、黒海苔の後に自然と生える青海苔を生産したらどうかという提案をしました。

当初は値段が安い青海苔を生産することに乗り気でなかった役員たちでしたが、赤腐れ病等のリスクがなく、収穫量も比較的安定している青海苔生産に次第に賛同するようになっていきました。

当時は海苔といえば黒海苔であり、青海苔の販路が安定していなかったためその生産はなかなか軌道に乗れませんでした。

しかし、昭和46年から48年にかけて実施された松川浦での水路整備事業で湾内の潮流が安定し品質や収穫量が向上したこと、組合員による養殖方法の改良や販路開拓への尽力も

あり、松川浦で養殖された青海苔は全国でも高い評価を得るまでになりました。

このように幾多の苦勞を乗り越えてきた当地の海苔養殖でしたが、平成23年3月11日の東日本大震災では壊滅的な被害を被りました。10畝を越える津波で海苔網が完全に流された光景を目の当たりにした時にはこれまで組合員が長い時間をかけて築き上げてきたものが一瞬にして崩れさった様な気分となり、大きなショックを受けました。

しかし、再び海苔養殖を復活させたいという組合員の熱意と関係者の温かい励ましの声に後押しされ、現在新しい種場の確保を始めているところです。

国有林が近くにあるにもかかわらず、震災前まではその存在を特に意識したことがなかった私ですが、震災後クロマツ林がなくなり、浦内の潮の流れや風の強さが変化したことで防潮保安林というもの意義を改めて実感させられました。

今後新たに復旧させる防潮林は津波に強い構造のものを計画しているとの伺いました。

震災前の立派な森林になるまでは長い時間と手間がかかるものと思いますが、一日も早く復旧、復興が実現することを願ってやみません。

(写真提供…相馬市)

森づくり最前線

福島森林管理署 土湯森林事務所 首席森林官 石井 浩



一切経山からの吾妻小富士



「魔女の瞳」コバルトブルーの五色沼



「きぼっこの森」探索へ出発



新たに導入されたコンテナ苗

土湯森林事務所は、福島県中通り地方の福島市西部に位置し、山形県境に沿って東西に伸びる吾妻連峰の東側から安達太良連峰の北側に位置する鬼面山、箕輪山の東側にかかる磐梯朝日国立公園を含む約8,900㍍を管理しています。

吾妻連峰の東側に位置する一切経山、東吾妻山、吾妻小富士の中心の浄土平には、ビジターセンターや駐車場が整備されており、今年からアクセス道の磐梯吾妻スカイラインの通行料が無料化されたこともあり、観光や登山などで大変な賑わいとなっています。

この一帯の大きな特徴は、ダイナミックな火山地帯と動植物による変化に富んだ自然景観の広がりです。とりわけ高山植物・沼の数々は、訪れる人々を癒してくれ、浄土平から吾妻小富士へは、1時間程度と気軽に登山を楽しむことができます。

また、管内には土湯温泉・微温湯温泉・あずま温泉・高湯温泉などがあり、地元観光協会・学校・新聞社等と連携し森林教室・自然観察会・フォトコンテスト等が実施されています。

「道の駅つちゆ」に隣接している標高700㍍から800㍍の南沢スポーツ林内には、多くの人達に自然観察など森林とのふれあいを深めることのできるよう整備した「きぼっこの森」約31㍍が設定されています。

「きぼっこ」とは、昔から土湯地域で呼ばれてきた「こけし」の呼び方の一つで、地元土湯小学校の児童たちからの公募によりネーミングされたものです。

この「きぼっこの森」には、こけしの原料となるウリハダカエデ・ナナカマド・ミズキなどの広葉樹がアカマツと混交した林相となっています。

自然条件にも富み、130種の草や90種の樹木のほか、鳥類、昆虫類、両生類の種類も豊富で、林内にある湿地には、水芭蕉が咲き、モリアオガエルが生息し、繁殖期になると水際の樹木の枝に「泡巣」と呼ばれる生み付けた卵塊も観察することができます。

散策路は、約4㍍にわたり木道やウッドチップなどで整備され、林内には案内板・樹名板が設置されており、気軽に散策することができ、東屋からは、南の安達太良山から北の一切経山までのすばらしい眺めを一望できます。

これらの整備に併せて、「きぼっこの森」を核とした楽しみ方や学び方などについて紹介した「土湯地域における森林・林業体験プログラム」の冊子を作成し、市内の小・中学校などへ配布し、森林環境教育を目的とした森林教室や自然観察等の体験活動フィールドとして活用を図っています。

また、当事務所管内では、従来からの森林の管理、育成に加え、スギのコンテナ苗の導入など新たな試みにもチャレンジしています。

このように、新たな森づくりや森林環境教育の推進など、開かれた「国民の森」としての取り組みを進めていくことはとても重要なことではないかと考えています。

管内のいちおしスポット



浅草山麓遊々の森

■ 中越森林管理署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/chuetu/index.html>
〒949-6608 新潟県南魚沼市美佐島61-8
TEL:025(772)2143(代表) FAX:025(772)2635



浅草山麓エコミュージアム(エコセンター)

新潟県魚沼市大白川国有林内に設けられた浅草山麓遊々の森は、車で関越自動車道小出インターより国道252号線を入広瀬方面に約50分ほど進んだ、標高800㍍の高原に位置します。

中越森林管理署では、レンジャーが常駐して自然観察や地理・歴史学習などの各種環境教育を展開している新潟県立浅草山麓エコミュージアムと隣接する国有林約230㍍を森林環境教育の一層の推進を図る目的として、平成22年6月に新潟県魚沼市と協定を締結しています。

浅草山麓エコミュージアムは、バリアフリー木道が整備されており、車椅子やベビーカーでも安全に自然観察が楽しめ、152種の動物と昆虫、53種の鳥類、172種の植物が確認されています。

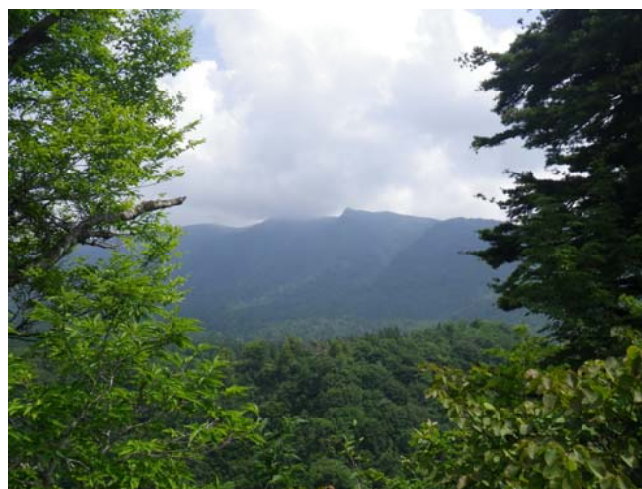


遊歩道入口(ヤマネコース)

浅草山麓遊々の森には、ヤマネコース、ノウサギコース、カモシカコースの3つの散策路が整備され、中越森林管理署が作成したハンドブックを活用し、小中学生が利用する6種の体験プログラムと指導者のための解説プログラムを使った森林環境教育が行われています。

冬季間は閉鎖されていますが四季折々の自然を楽しむことができる浅草山麓遊々の森に是非一度お出かけになってみてはいかがでしょうか。

(中越森林管理署 森林技術指導官 石田 健)



展望エリアから浅草岳(標高1585㍍)を望む



沢から吹き上げる風が心地よい散策路からの風景

編集所
FTEL 総務課
AEL 総務課
XEL 総務課
(025) 230-1393
(025) 230-1393
(025) 230-1393